

課題名・教師

タイトル「いつまでも教え子」

作者：parade556

登場人物

呉斎（76）（51） 元刑事

香取崔（47）（23） 刑事

井上将司（54） 警察署・署長

呉仁（51） 斎の息子

強盗犯の若い男

人質の若い女性

その他、刑事や署員たち

マスコミと野次馬

○コンビニエンスストア・全景

入り口に突っ込む乗用車。書店棚が大きくひしゃげ、商品が散乱。

数人の客が、車の下敷きになっている。店内にいる店員や客が、驚いて集まってくる。

○突っ込んだ車・車内

運転席に、呉斎（76）自分が、どうしてここにいるのかわかっていない顔。遠くからパトカーのサイレン。

○警察署・署長室前の廊下

○同・室内

井上将司（54）署長席に座り、腕を組んでうなっている。

向かいに立つ香取崔（47）

井上「まずいことになったな」

香取「はい」

井上「上からは隠せ、と言われてる」

香取「やはり…そうですね」

井上「オマエ、一度、話してこいよ。俺の顔、
憶えてないんだ呉さん」

○同・廊下

香取、緊張した面持ちで歩いている。

香取の声「おい。待て」

○（回想）街角（夕方）

T・「24年前」

香取崔（23）ナイフを持った若い男
を追いかけている。男、路地を曲がる。

○（回想）同・路地（夕方）

男、若い女性を人質にとっている。

香取、拳銃を構えるも足が震えて撃て
ない。

男「撃てるもんなら撃ってみろよ」

香取の耳元で、銃声。

男の肩に命中し、倒れる。男を取り押さえようとなだれ込む警官たち。

香取、振り返る。

呉斎（51）拳銃を持って立っている。

銃口から立ち上る煙。

香取「く、呉さん」

呉「バカヤロウ。ビビり屋に刑事が務まるか」

香取「で、でも」

呉「この街を守るのが俺たちの仕事だ。ため

えのことしか考えてねえから足が震えんだ」

香取「すいません。俺…」

呉、大きく笑うと、しゃがみ込む香取を立ちあがらせ、

呉「自分と闘え。この街の未来は、おまえ達にかかっているんだ」

○元の廊下

香取、歩いている。

○留置場の中

呉、牢屋の中に座っている。

目の前に朝食が置かれているが、壁をぼんやりと眺めている。

香取「呉さん」

呉「…」

香取「お、俺です。香取です。呉さん」

呉、香取の方を見る。

香取「（無理矢理笑う）呉さん。お元気でしたか？」

呉、香取のことが誰だかわかっていない顔。

呉「今、何時かね？」

香取、腕時計を見て、

香取「今、今ですか？15時です。呉さん」

呉「そうか。そろそろ訓練場に行かんとな」

香取、驚いた顔で呉を見る。

○同・屋上（夕方）

隅の方に喫煙場所がある。

香取、ひとり煙草を吸っている。

井上がやってくる。

井上「死人が出た。それも二人だ」

香取「え？」

○コンビニの店内（夕方）

商品棚にこびり付いた人の血。

井上の声「若い母親と赤ん坊らしい。もう、

マスコミは嗅ぎつけてる」

香取の声「ど、どうするんです？」

○警察署・屋上（夕方）

井上「上は、切るつもりだよ」

香取「そ、そんな。じゃあ呉さんは」

井上「…逮捕される」

香取「署長。待ってください」

井上「わかってる。わかってるよ。だけど、

俺たちじゃ、もうどうしようもないところ

まできてるんだ」

○テレビ画面・ニュース映像（夜）

コンビニに突っ込んだ車。

現行犯逮捕【呉斎（76）（無職）】

【元刑事】のテロップ。

○警察署・留置場の中（夜）

呉、寝ている。呉の顔。

○呉の夢・射撃訓練場

呉、腕組みをして若い刑事たちの射撃
を見ている。

× × ×

呉の腕前に感嘆する刑事たち。その中
に井上や香取の姿もある。

○元の留置場の中（夜）

呉（寝言）「腰を落とせ香取。腰を」

○同・応接室（朝）

困惑顔の井上と香取。

向かいに座る呉仁（51）仁はスーツ

姿。七三分け。銀縁の眼鏡。神経質

そうに貧乏ゆすりをしている。

仁「だから、何度も施設に入れて言ったんだ俺は。最悪だよ。最悪の形だよ。これは」

井上「む、息子さん。落ち着いてください」

仁「（頭を抱えて）ああ。もう。何やってんだよオヤジは」

香取、拳を握り締める。

○同・留置場（朝）

呉、食事をしている。

香取「く、呉さん」

呉、顔をあげると目を輝かせ、

呉「おお。香取。おはよう」

香取「お、おはようございます」

呉「射撃訓練やるぞ」

香取「え？」

呉「俺がみっちり教えてやるからな」

香取「呉さん」

呉「井上も幸田も、みんな集めろ」

香取「…は、はい」

呉「自分と闘え。この街の未来は、おまえ達にかかっているんだ」

○（回想）路地のシーン

呉の笑顔。

○元の留置場（朝）

香取の目に涙があふれ、部屋を飛び出していく。

呉「おい香取。香取」

○警察署・駐車場

護送車が近づいてくる。

井上、香取や他の署員たちの前に立つ。

みんな、井上に抗議している。

井上「仕方ないだろ。上からのお達しだ」

香取「し、しかし」

井上「絶対に駐車場からは出るな」

○同・警察署の外

大勢のマスコミや野次馬。

井上の声「いいか。一人でもカメラに映った
ら、クビが飛ぶと思え」

○同・駐車場の中

香取「それが功労者へのやり方ですか」

井上「ただのボケた爺さんだ」

しん、と静まり返る。

井上「そう。上が言ってるんだ。俺だって辛
いんだよ。俺だって」

井上の目に涙が浮かぶ。

通路から、二人の警察官に挟まれて、

呉、手錠をされながら歩いてくる。

香取「く、呉さん」

香取、呉に近づいていく。

他の署員たちも、口々に名前を言いな
がら近づいていく。みんな、泣いてい
る。

呉「おお。香取。宮島。伊藤。あれ、由美ち

やんじゃないの。なんだ、みんなシケた面してんなあ」

呉、笑う。

井上、少し離れたところで泣いている。

呉「井上。井上」

井上、顔をあげる。

呉「今日は、みっちり訓練してやるから、そのつもりでいろ」

井上「呉さん」

呉「自分と闘え。この街の未来は、おまえ達にかかっているんだ」

井上の目から涙があふれる。

呉、警察官に誘導されるまま、護送車に乗り込む。

× × ×

走り去る護送車。

香取たち、入口まで駆けていくも、足が止まってしまふ。

香取「ちきしょう…ちきしょう」

香取、自分の足を何度も何度も殴る。